

「産業ストレス研究」執筆規定

1. 本誌に掲載される論文は、依頼論文と投稿論文とし、未発表のものに限る。
 2. 依頼論文は編集委員会の承認を受け、執筆される論文であるが、執筆の体裁は本執筆規定に準ずるものとする。
 3. 投稿論文および依頼論文は、本学会の目的に沿った論文とし、「原著／症例報告、資料論文、活動報告、総説、話題、論壇」の6種を設ける。投稿資格者は、学会正会員とする。
 4. 1) 原著／症例報告《未発表のデータおよび症例に基づく研究論文》
原著(1)データの解析方法・統計的処理が適切に行われていること
(2)同一データを用いた異なる解析方法・統計的処理による発表ではないもの
(3)文献に基づく考察が適切に行われていること
(4)オリジナリティの高いもの
(5)引用する文献は必要にして最低限のものであること
症例報告(1)同一症例を用いた異なる観点からの発表ではないもの
(2)その他は原著に準ずる
※論題(邦文、英文)、著者名(邦文、ローマ字表記)、所属(邦文、英文)、5個以内のキーワード(邦文、英文)、Running head(短い標題:邦文、英文30字)を第一ページに記し、第二ページに200語以内の英文Abstract(邦訳付)、英文の場合も200語以内の英文要旨を記し、第三ページ以降に、はじめに(Introduction)、方法(Method)、結果(Results)、考察・論議(Discussion)、および引用文献を続けて書く。
 - 2) 資料論文《調査・実験・観察等に基づく資料の紹介》
(1)データの解析方法・統計処理等が適切に行われていること
(2)同一データを用いた異なる解析方法・統計的処理による発表ではないもの
(3)文献に基づく考察は必ずしも必要としない
(4)オリジナリティは必ずしも必要としない
(5)英文タイトル・英文抄録・キーワードの添付を要する
 - 3) 活動報告《現場等における活動の実態を報告するもの》
(1)実践的活動の現状を中心としたもの
(2)活動の効果等に関する検証は必ずしも必要としない
(3)統計的解析処理は必ずしも必要としない
(4)英文タイトル・英文抄録・キーワードを要する
 - 4) 総説《展望・レビュー・文献紹介など》
(1)特定の研究領域に関する現状の紹介および将来展望
(2)最新情報を含めた総合的な記述がなされ、関連する文献を網羅することが望ましい
(3)特定領域の初学者に対する解説であってもよい
(4)英文タイトル・英文抄録・キーワードの添付を要する
※各章立てにする点を除いて原著に準ずる。
 - 5) 話題《産業ストレスに関連する諸領域の話題やトピック》
(1)読者の関心をひく up to date な内容であること
 - 6) 論壇《「産業ストレスの本音を語る」をテーマに自由闊達に記述する》
(1)原稿はA4用紙に1行32文字、1頁25文字(800字)で1600～3200字以内、刷り上り1～2枚(1頁約2000字)とする
(2)タイトル・投稿者名・所属・本文の順に和文で記述する
(3)掲載料は無料とする(但し、別刷を希望する場合は1部100円)
5. 論文の記述は簡明易懂に現代かなづかいを用いて行う。なお、英文論文は投稿以前に必ずNative speakerの専門家に目を通してもらう。
6. ワードプロセッサやコンピュータを用いて記述する場合は、邦文原稿はA4判用紙に、1行32文字、1ページ25行の書式で記述する(800字/ページ)。英文原稿も同じくA4判用紙にダブルスペースでタイプする。
7. 文献は引用順とし、末尾文献表の番号を片括弧を付けて右上肩に記す。

例:合田らによれば

文献引用例

雑誌の場合は、全著者名:表題、雑誌名(略名)、巻数、頁-頁(年号)の順に記す。

- 1) 合田 忠, 坂本竜夫: 抗酸菌の中性紅反応に関する一考察, 結核, **42**, 279-283 (1967)
 - 2) Pell, S. and D'Alonzo, C. A.: Chronic disease morbidity and income level in an employed population, Am. J. Public Health, **60**, 116-129 (1970)
- 1), 2) の註: 原則として号数は記載しない。ただし通巻頁のない場合は号数を記すこと。雑誌名はその雑誌が使用している略名とする。
単行本・報告書の場合は、編・著者名:書籍名, 頁, 発行所, 同所在地(発行年)の順に記す。
- 3) 中川一郎, 二国次郎, 吉川春寿: 新栄養学, p.497, 朝倉書店, 東京 (1963)
 - 4) 堤 明純: 職業ストレス対策の一次予防戦略, In 丸山総一郎(編): ストレス学ハンドブック, pp.478-490, 創元社, 大阪 (2015)
 - 5) 下光輝一, 原谷隆史, 中村 賢, 川上憲人, 林 剛司, 廣 尚典, 荒井 稔, 宮崎彰吾, 古木勝也, 大谷由美子, 小田切優子: 主に個人評価を目的とした職業性ストレス簡易調査票の完成, In 加藤正明(班長): 労働省平成11年度「作業関連疾患の予防に関する研究」労働の場におけるストレス及びその健康影響に関する研究報告書, pp.126-164, 労働省, 東京 (2000)
 - 6) Grundy, F.: Preventive Medicine and Public Health, H. K. Lewis Co. Ltd., London (1960)
 - 7) Feldstein, M.: In "Progress in Chemical Toxicology, Vol. 1" (Editor: A Stolman), p.331, Academic Press, New York and

London (1963)

3), 4), 5), 6), 7) の註: 引用箇所の頁数を記すこと。ただし内容を全般的に引用する場合は頁数を略してもよい。

Web ページの場合は, 全著者名: 表題, web ページアドレス, (閲覧日) の順に記す。

8) 厚生労働省: 就業形態の多様化に関する総合実態調査, <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001021304> (2015年7月7日閲覧)

8. 本雑誌の単位符号は原則としてSI単位を用いる。(JIS Z 8203参照)

例: 1) 長さ, 面積, 体積 km, m, cm, mm, μ , μ m, nm (特殊な分野では Å)
km², m², cm², mm² (ha, a)
m³, cm³, mm³, ℓ , dl, ml, kl, μ l

2) 質 量 kg, g, mg, μ g

3) 時 間 d (日), h (時), min (分), s (秒), ms, μ s

9. 脚注は表題と所属機関についての補足説明, 謝辞, 内容の補足説明に限り用いる。文中の該当箇所に前から順に通し番号を付け, 原稿は参考文献の次のページに書く。

10. 図や表の数は必要最小限にとどめ, 一枚ずつA4判用紙に書く。図表は, そのまま製版できる状態にしなければならない。図表は印刷されるときの大さきの1.5ないし2倍大に書く。写真についても印刷されるときの大さきの1.5ないし2倍大の光沢平滑印画紙に焼き付けること。カラー写真の場合はその製版印刷の全額を著者の負担とする。なお, コンピュータを用いて製作した図や表も受け付けるが, 不都合な場合は使用ソフトにて編集委員会がその都度指示する。

11. 図や表の説明は脚注の次のページ以降に順に書く。

12. 全てのページにページ番号を付けること。また, 各行の左端にページごとに行番号を付けること。

13. 掲載料は当分の間, 一編につき刷り上がり1頁(400字詰め原稿用紙約5枚に相当する)あたり2,000円とする。なお, 別刷代は1編につき, 頁数に関わりなく1部100円として, 請求部数は50部単位とする。

14. 論文は, 原則としてMicrosoft Wordで作成し, 下記事務局宛にMicrosoft WordまたはPDFの状態にてEメールに添付し送付すること。図表についても, できるだけ論文原稿とともに1つのMicrosoft WordファイルまたはPDFファイル内にまとめること。

15. 本誌に掲載された論文の著作権は日本産業ストレス学会に帰属する。

16. その他, 疑義が生じた場合は編集委員会に問い合わせる。

産業ストレス研究編集委員

編集委員長 大塚 泰正 筑波大・人間系

副編集委員長 堤 明純 北里大・医・公衆衛生学

編集幹事 芦原 睦 中部労災病院・心療内科・勤労者メンタルヘルスセンター

石川 浩二 三菱重工業株大江西・飛鳥健康管理科

石川 俊男 国立国際医療研究センター・国府台病院・心療内科

川上 憲人 東京大大学院・医学系研究科・精神保健学

鳥津 明人 北里大・人間科学教育センター

永田 頌史 産業医科大

廣 尚典 産業医科大・産業生態科学研究所・精神保健学

丸山総一郎 神戸親和女子大大学院・文学研究科

編集委員 井上 彰臣 北里大・医・公衆衛生学

岩田 昇 広島国際大・心理科学部・臨床心理学科

井澤 修平 労働者健康安全機構・労働安全衛生総合研究所・産業ストレス研究グループ

馬ノ段梨乃 京都産業メンタルヘルスセンター

小田切優子 東京医科大・公衆衛生学

川人 潤子 比治山大・管理栄養学部

小林 章雄 医学と社会・連携支援機構

小山 文彦 東邦大・産業精神保健・職場復帰支援センター

斉藤 政彦 大同特殊鋼株

鳥津美由紀 ソニーコーポレートサービス(株)

高橋 修 東北大・高度教養教育・学生支援機構

高原 龍二 大阪経済大・経営学部

巽 あさみ 浜松医大・医・地域看護学

田中 健吾 大阪経済大・経営学部

土屋 政雄 労働者健康安全機構・労働安全衛生総合研究所・産業ストレス研究グループ

津野香奈美 和歌山県立医大・医・衛生学

中田 光紀 産業医科大・産業保健学部

廣川 進 大正大・心理社会学部・臨床心理学科

福川 康之 早稲田大

松原 良次 札幌花園病院

三木 明子 筑波大・医学医療系

峰山 幸子 オフィス・マインドシェア

森崎美奈子 京都文教大・産業メンタルヘルス研究所

編集事務局 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-4-5

労働調査会 出版局内

日本産業ストレス学会編集事務局 杉山・新関

電話 03-3915-6415 FAX 03-3915-9041 e-mail sangyo.stress@gmail.com